

2011年度第2四半期決算説明会サマリー (2011年11月8日開催)

(1)2011年度第2四半期 決算概要(前年同期比)

①売上高 1,834 億円	前年同期比	+66 億円 → 数量減▲1 億円・販売価格差+68 億円
②営業利益 118 億円	前年同期比	▲ 8 億円
<要因別内訳>	数量減少	▲ 1 → 一時的なプラントトラブルの影響等 他
	販売価格差	+ 68 → 有機系素材+73 他
	コスト差等	▲75 → 原材料価格上昇によるコストアップ、電材能力 増強による固定費負担増 等
③一過性の要因(上記要因の内数)		▲14 億円
<内訳>	震災の影響	▲ 9 → SM プラント停止に係る費用、電材機会損失等
	プラントトラブル	▲ 5

上記以外に円高の影響あり

→営業利益▲8 億円(2010 年度第 2 四半期 89.0 円/ドル→2011 年度第 2 四半期 79.8 円/ドル)

※原材料価格の上昇によるコストアップに加えて、医薬の数量減、電材等の固定費負担増により減益

(2)2011 年度第 2 四半期 決算概要(当初予想比)

①売上高 1,834 億円	当初予想比	▲96 億円 → 数量減▲76 億円・販売価格差▲20 億円
②営業利益 118 億円	当初予想比	▲12 億円
<要因別内訳>	数量減少	▲27 → 電材・CR 等販売数量未達
	販売価格差	▲20 → 原材料価格下落に伴う石化系製品の値下がり 他
	コスト差等	+ 35 → 原材料価格下落に伴うコスト減+21、在庫要因+14
③一過性の要因(上記要因の内数)		▲18
<内訳>	震災の影響	▲ 3 → 上期実績▲9 億円(当初織込み▲6 億円)
	プラントトラブル	▲ 5
	価格転嫁タイムラグ	▲10

※原材料価格は概ね想定以内であったが、電材、CR 等の販売数量が予想を下回り未達

(3)2011 年度通期業績予想(当初予想比)

①売上高 3,870 億円	当初予想比	▲270 億円 → 数量減▲205 億円・販売価格差▲65 億円 (前年同期比 + 291 億円)
②営業利益 260 億円	当初予想比	▲60 億円 (前年同期比 + 14 億円)
<当初予想比要因別内訳>	数量減少	▲77 → 電材・CR・DX フィルム等の数量減
	販売価格	▲62

→ 原材料価格下落に伴う石化系製品の値下がり 他

コスト差等 + 79 → 原材料価格下落によるコスト減 他

※経済環境の悪化による電子材料製品等の販売数量減少を織込み減額修正。

③経済環境

- ・ 国内:震災の影響がなくなり、復興需要も始まる(但し 2011 年度内に実現する需要は一部のみ)
- ・ 世界:欧州信用不安、中国経済引締め、円高の進行・定着、タイの洪水等経済環境の先行きは不透明

(4)その他

①主力製品動向(電材)

- ・半導体・電子部品分野:溶融シリカフィラー、キャリアテープ用素材
→足元は厳しい状況だが、アジアでのボリュームゾーン参入により更なるシェアアップを目指す。
- ・液晶TV・LED分野:蛍光体、モノシランガス、BN成型品
→大型液晶TVの売れ行き不振により、蛍光体の出荷数量は横ばい。
- ・エネルギー・インフラ分野:ANP・アルシンク
→中国の鉄道事故の影響が懸念されるものの、比較的安定した成長が見込まれる。
- ・その他:セラミックス(BN・SN)、放熱材、その他接着剤等
→スマートフォンのバーガラス積層加工用接着剤、ベアリング用セラミックス等の伸長を見込む。

②主力製品動向(CR・その他)

- ・クロロプレンゴム
→中国の経済引締め政策などで一時的な調整局面となっている。円高が進行する中、継続して価格は是正に取り組むが、他社原料のブタジエン価格が足元で下落しているため値上げは難しい状況。
- ・DXフィルム
→欧州の信用不安により、太陽光発電市場は調整局面だが、中長期的には成長を期待。
- ・医薬
→新プラント品への切り替えに伴いその前後で出荷数量が大きく波打ったが、今後は新プラントでの拡販体制確立。

③今後の具体的戦略

- ・世界経済の先行きは不透明だが、当社の「素材型事業の収益を基礎として、電子材料や機能・加工製品などの高収益製品を“成長分野”と“成長地域”で伸ばす」という基本方針は変更することなく、中期経営計画を推進し「DENKA100」達成を目指す。
- ・中国、アジアは成長地域であり、引き続き電材や樹脂加工製品の海外展開を強化。
→半導体・電子部品関連製品および合繊の海外生産拠点新增設等。
- ・エネルギー・インフラ分野、携帯端末等情報関連分野等新たな成長分野へのリソース重点化
- ・クロロプレンゴムは米国への参入を準備中。

④資本政策

・主要財務指標

	(2011年9月末)	(2011年3月末)
総資産	4,072 億円	4,020 億円
有利子負債	1,159	1,146
純資産	1,716	1,682
株主資本比率	41. ⁵ %	41. ² %
D/Eレシオ	0.675	0.681

※安定配当をベースに配当性向 30%以上を目指す。

※2011年11月8日自己株式取得を決議。

(期間:2011年11/8~2012年3/31、株式総数上限:900万株、取得価額総額上限:30億円)

(5)質疑応答

- ①クロロプレンゴムは、他社主原料のブタジエン価格が下落している中、今後売価の維持は可能か。
- ・値下げ圧力が強くなることはある程度覚悟しているが、何とか踏み止まれるよう最善をつくす。
 - ・世界的にブタジエンの中長期的な需要増加が見込まれる一方で、供給量を大きく増やす計画がないため、ブタジエンのタイトな需給バランスが継続し、事業環境も早晩改善すると考えている。
- ②2011 年度下期の半導体関連製品は上期に比べ増収の予想だが、足元でその兆候があるか。
- ・年末まで不調が続くものの、年明けからの回復を見込み増収とした。
 - ・回復時期が遅れば計画達成は難しくなるが、中国が金融緩和に政策転換するとの報道もあり、それほど悲観はしていない。
- ③白色 LED 用サイアロン蛍光体の下期販売計画および緑色以外のグレードの開発状況は。
- ・当社の蛍光体は、主に大型テレビ等のハイエンド品に使用されているが、上期はその大型テレビの売行きが振るわず、下期も回復の可能性が低いいため数量減の計画とした。ただし、来期以降には回復に転ずるとみており、液晶テレビ向けを中心に緑を伸ばしていくという方針は変えない。
 - ・また、新規の採用拡大についても、韓国や台湾の大手メーカーから好感触を得ており来期に期待。
 - ・照明用途のサンプル出荷が順調に進んでおり、プロジェクター等高演色性が求められる分野をメインターゲットに据え、早期実績化を目指す。
- ④電材の上期実績と下期予想では、増収増益となっているが、売上高増加率に比べて営業利益増加率が低すぎるのはなぜか。
- ・製品の構成差（プロダクトミックス）によるもので、下期予想には比較的利益率の低い製品が伸びると見ているため。
- ⑤有機系素材の下期予想が前期比で増収減益の理由。
- ・CR の定修等コストアップ要因があるため。
- ⑤医薬品のプラントトラブルの内容。
- ・昨年秋新プラントが完成し、旧プラントから製造を移管した。順調な立ち上がりを目指したが、設備の一部を手直しする必要があることがわかり、製造を 1~2 ヶ月間停止して対応したため、その間機会損失が生じたが、既に問題は解決しており現在は操業中。
- ⑥半導体・電子部品関連製品のボリュームゾーンでの採算性は。
- ・該当製品の、溶融シリカ、電子包材は世界シェア 50%以上であるが、更なるシェアアップを目指してボリュームゾーンへの参入を決めた。メイン市場のアジアで生産し、コストダウンを図ることで採算を確保する。

以上